

道徳教育の目標は、どのように改善されたのですか。

★ ポイント

道徳性を養うことを目標とする道徳教育に対する基本的な考え方はこれまでと変わりはありませんが、これまで以上に学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の充実が求められています。

特にキーワードは「自立」です。

1 これまでの道徳教育の目標について

平成26年10月に中央教育審議会から出された答申「道徳に係る教育課程の改善等について」の中で、これまでの道徳教育の目標は、「文章の構造が複雑で理解しにくいことや『道徳性』、『道徳的実践力』などの用語の意味、相互の関係が分かりにくいことなどが指摘されており、その改善が求められる。」と課題が示されています。

2 道徳教育の目標の改善点

【道徳教育の目標】

(第1章総則第1の2の中段)

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする。

『一部改正中学校学習指導要領』（平成27年3月）では、現行の規定を整理した上で、最終的には、一人一人が生きる上で出会う様々な場面において、主体的に判断し、道徳的行為を選択し、実践することができるよう生徒の道徳性を育成するものであることをより明確にするため、簡潔な表現に改められました。

この道徳教育の目標のキーワードは「自立」です。自ら道徳的問題を見だし、その解決策を主体的に考え、行動する資質・能力を育成することが大切です。これは、今日的な課題に取り組むためにも必要なことです。

道徳教育と道徳科の目標は、いずれも最終的には道徳性の育成です。学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の中核は道徳性の育成であり、その道徳性を養うための授業が道徳科です。このように、道徳教育の目標は、道徳科との関連性やそれぞれの役割を明確にし、分かりやすくするように改善されています。

【資料】学校の教育活動全体で行う道徳教育

